

総合計画の意義・計画策定の背景

第9次豊田市総合計画の意義・計画構成

（本編P3～4）

豊田市のまちづくりの羅針盤

- 総合計画は、市民と行政がともに取り組む、これからの豊田市のまちづくりの方向性を明らかにする最も基本となる計画
- 第9次豊田市総合計画では、ますます変化が激しい予測困難な社会の中での展開となるため、本市の目指す姿の実現に向けて、常に施策を見直しながらまちづくりを進める

第9次豊田市総合計画

公
毎
年
表

計画策定の背景

豊田市の特性・強み 豊田市を取り巻く環境変化

ミライ構想

長期を展望して設定する**普遍的な**豊田市のまちづくりの方向性

ミライ実現戦略2030

ミライ構想の実現に向けて**5年間で特に注力する**取組の方向性

当初予算における事業の一覧

ミライ実現戦略2030の実現に向けて、当該年度に行う施策・事業

計画策定の背景

（本編P7～16）

豊田市の特性・強み

多様で充実した担い手が活躍するまち

- 多様なまちづくりの担い手が存在し、市民・地域・企業・行政それぞれが有する知見や資源等を生かした共働のまちづくりを進めている

多くの市民が住みよさ・愛着を感じているまち

- 本市で生まれ育った市民だけでなく、本市へ移り住んだ市民も含め、人々が暮らしやすいまちを目指して様々な取組を進めた結果、7割を超える市民が「住みよいまち」、約8割の市民が本市に「長く住みたい」と感じている

世界的な自動車産業の拠点として発展してきたまち

- 自動車産業を中心としたものづくりに関わる企業への就業割合が高く、その企業文化は市民や地域の生活にも浸透している。一方で、人口動向や行財政事情が経済情勢の変化による影響を受けやすく将来の変化を見通しにくいという潜在的なリスクを有する

豊かな自然、多様な歴史・文化を持つまち

- 市域の約7割を占める豊かな森林、矢作川の水資源などの豊かな自然、歴史文化など多様な地域資源を有する。文化・スポーツなどの公共施設も充実し、FIA世界ラリー選手権など、世界的なイベントが開催されている
- 名古屋市を中心とした大都市圏の一部として、大学教育や商業施設を始めとした高次の都市サービスを楽しみつつ、日常生活に必要な医療・福祉の機能を有し、自立性の高い生活圏を形成している

豊田市を取り巻く環境変化

中長期的な人口減少・少子化・人生100年時代の進展

- こどもから高齢者まで、全ての人が元気に活躍し続けられる社会や、安心して暮らすことのできる地域社会をつくることが重要

価値観・ライフスタイルの多様化の進展

- 誰もが将来に希望を持ち、自分らしく安心して暮らせるよう、「つながり合い」を通じた、気づき合い、認め合い、学び合いが重要

産業構造の大転換・カーボンニュートラルの要請

- 産業構造やビジネスモデルが大きく転換する中で、引き続きものづくり企業が集積している特性を生かしたまちづくりが重要

デジタルトランスフォーメーション（DX）の加速、生成AI等の技術革新の進展

- デジタル化や生成AI等の技術革新が社会経済全般にもたらす様々な可能性を生かしたまちづくりが重要

持続可能な都市経営の重要性の高まり

- 気候変動や災害の激甚化、公共施設の老朽化など、本市の経営を取り巻くリスクを想定し、様々な主体と協力・補完し合いながら、まちづくりを進めていくことが重要

リニア中央新幹線等の開業等

- 中部圏域の経済優位性が高まることが予想される中で、日本経済の飛躍を担う本市の役割を意識した取組が重要

ひと
の
視
点ひと
を支
える
基
盤
（
ま
ち
）
の
視
点ひと
の
視
点ひと
を支
える
基
盤
（
ま
ち
）
の
視
点

ミライ構想

長期を展望して設定する **普遍的な** 豊田市のまちづくりの方向性

将来像

(本編P19)

つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた

○「つながり」によって、多様な価値や可能性を創出するまち

わたしたちは、様々な「つながり」を通じてお互いを生かし合う中で、多様な価値や可能性をつくり出し、暮らしを楽しむことができるまちを目指します

○「チェンジ（変化）」と「チャレンジ（挑戦）」によって、しなやかに変化し続けるまち

わたしたちは、積極的・前向きに変化することを受容し、先進技術等も取り入れながら、主体的に挑戦への一歩を踏み出せる、心豊かな社会を目指します

まちづくりの基本的な考え方

(本編P20～21)

4つの「発想の転換」

- ①「個の充足・完結」から「つながり・関係性の広がり・深まり」重視へ
- ②「ないものを補う」から「あるものを生かす」発想へ
- ③「足し算（積み重ね）」に「かけ算（組み合わせ）」思考を
- ④「行政がリードするまちづくり」から「多様な主体が創り上げるまちづくり」へ

3つの「変える」

- ①見方を変える＜気づく＞
これまでのあり方を当たり前とせず、多様な価値観を認識し、認め合う
- ②思考を変える＜考える＞
時代に即して、常に考え方を柔軟に変えていく
- ③行動を変える＜行動する＞
自分ごととして物事を捉え、できることから行動につなげていく

将来都市構造

(本編P22～25)

拠点連携型都市

- ☑ 更なる選択と集中により、暮らしと自然が調和する土地利用を図る
- ☑ 拠点同士の連携を強め、様々な循環・対流を生み出し、都市部と山村部それぞれの価値を高め合うことを目指す

＜基本的な考え方＞

- 広大な市域の中で、市民の暮らしを将来にわたって維持・向上するためには、都市部と山村部の都市基盤を柔軟に活用しながら、社会環境に適応して、多様な価値や可能性を創出するまちづくりが必要
- 地域の特性に応じて、暮らしに必要な機能を集積・維持すべき場所を「拠点」、公共交通や道路・情報基盤を「ネットワーク」に設定し、拠点間の相互連携を図る

＜拠点連携型都市の実現に向けて＞

拠点への居住・機能の緩やかな集積と拠点間の連携強化

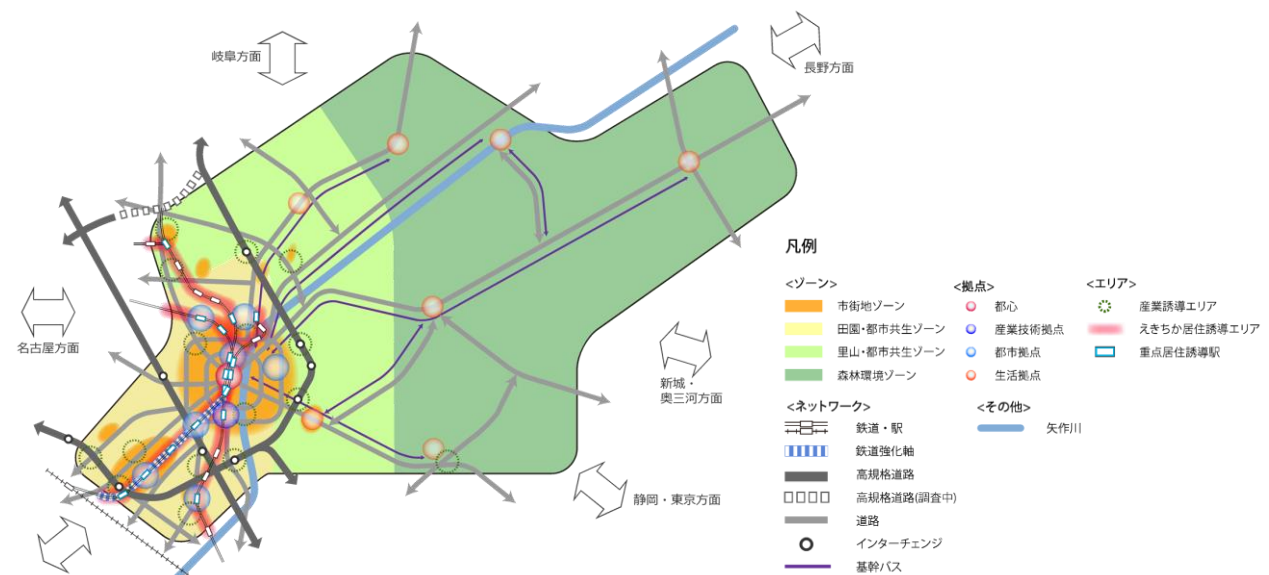
- 都市部では、拠点を中心に暮らしに必要な機能を集めることに加え、利便性の高い地域への新規居住や住替えを推進
- 山村部では、必要な機能を拠点に維持し、暮らしの質を確保するとともに、コミュニティの維持に向けた移住・定住、交流を促進
- リニア中央新幹線の開業を見据えた名古屋市へのアクセス機能の強化を図るとともに、拠点同士の連携や交流の促進に必要なネットワークを強化

都市基盤を生かした更なる産業の強化と地域資源の保全・活用

- 将来にわたって都市活力を持続するため、充実した都市基盤を最大限に活用した更なる産業の集積・強化を推進
- 優良農地や森林の保全を基本とし、地域特性に応じて地域活力の向上に資する農地や森林の活用を推進
- 豊かな自然や歴史・文化・スポーツなど様々な地域資源を活用した地域の活性化を推進

安全・安心な防災まちづくりの推進

- 農地や森林が持つ多面的機能を生かした適切な土地利用を推進
- 自然災害へ適応するため、防災・減災対策の着実な推進



※将来都市構造における「都市」とは豊田市全域を指します
「都市部」とは、本市の中で人口や暮らし機能が集まっている地域を指します

ミライ実現戦略2030

ミライ構想の実現に向けて5年間で特に注力する取組の方向性

ミライ実現戦略2030の背景

（本編P27～29）

注力する視点

（本編P30～32）

「人口減少社会への突入」「人口構造の大転換」

<主な背景>

- 人口減少：2050年の総人口約37万人（高齢化率33.4％）
- 少子化の進行：本市で生まれるこどもの数が10年で約35％減少
- 若年女性の流出：20～39歳の日本人女性が3年で約2,000人減少
- 外国人人口の増加：本市に住む外国人住民が、10年で約1.5倍

⇒従来の発想を前提とした仕組みや考え方を継続していくのではなく、新しい発想で物事を考え、チェンジ（変化）・チャレンジ（挑戦）の思考で取組を進めていくことが重要

⇒若年層を始め広く人々に「選ばれるまち」を作り上げていくことが重要

ミライ実現戦略2030の方向性

（本編P33～34）

取組方針1 ともにこどものミライに夢と希望をつくる

わたしたちは、本市が持つ誇るべき多様な地域性や価値、豊かな担い手を生かし、一人ひとりがつながり、楽しみながら、こどもたちが自らのミライに夢と希望を持てる社会をつくります

取組目標1 こどもが多様な生き方・暮らし方を選択できる

(1)こどもがミライを生き抜く力と自己肯定感を高めている

- ・こどもが多世代とのつながりの中で、多様な遊び・学び・体験ができる機会の充実
- ・こどもが多様なキャリアや先端技術等を学ぶ機会の充実

(2)人生100年時代に誰もが学び合いを通じていきいきと暮らしている

- ・いつでも誰もがやりたいことに挑戦できる機会の充実

(3)市民のまちへの愛着・誇りが育まれている

- ・「クルマのまち」の魅力を身近に感じられる機会の充実
- ・本市の多様な自然、歴史・文化芸術、スポーツの魅力の継承
- ・シティプロモーションの推進

取組目標2 誰もがつながり合いの中で安心して暮らすことができる

(1)まち全体がこどもの成長を支えている

- ・子育て支援や相談体制の充実
- ・こどもが安心して過ごせる居場所の充実

(2)誰もが地域・多世代でともにつながり合い、自分らしく暮らしている

- ・地域や多世代がつながり合う機会の充実と多様化

視点1 「こども」起点でまちづくりを考える

- 次世代を担うこどもたちが、多様な場で、多様な人・世代とつながり、多様な経験ができるまちづくりを進め、まちへの愛着を育み、こどもたちのミライに夢と希望をつくることを目指す

視点2 誰もが「つながり合う」まちづくりを進める

- まち全体でこどもの成長を支え、こどもから高齢者まで、全ての人がつながり合いの中で安心して暮らすことができる社会を目指す

視点3 人を支える「まちの基盤」をつくる

- 圏域をリードする産業中枢都市として深化し、拠点連携型の都市構造の中で安全・安心なまちづくりを進め、豊かな自然環境を次世代へつないでいくことを目指す

取組方針2 ともにミライにつながるまちをつくる

わたしたちは、将来を展望し、こどもたちにとって安全・安心で持続可能なまちの基盤をつくります

取組目標3 産業中枢都市として深化し続ける

(1)新たな産業が創出されている

- ・新事業の展開や新製品開発へのチャレンジの促進
- ・戦略的な基盤整備と立地支援

(2)市内事業者が社会の変化に適應している

- ・市内事業者の経営力強化

(3)誰もが希望する働き方を実現している

- ・女性などの多様な働き方の選択肢の充実

取組目標4 将来を展望した都市環境の形成を進める

(1)次代につなぐ快適な都市環境の実現に取り組んでいる

- ・快適に暮らせる都市環境の創出
- ・つながり・連携の促進によるにぎわいと地域活力の向上

(2)安全に暮らせる災害に強いまちの実現に取り組んでいる

- ・激甚化・頻発化する自然災害への適応

取組目標5 脱炭素社会の実現に挑戦する

(1)CO2排出削減目標を達成している

- ・多様な主体の行動変容の促進と具体的な取組の支援

(2)新たなエネルギーや技術の利活用に取り組んでいる

- ・新たなエネルギーや先進技術の利活用の推進

ミライ実現戦略2030

ミライ構想の実現に向けて5年間で特に注力する取組の方向性

施策体系					(本編P36～64)	
		取組目標（めざす姿）		施策		
ともにこどものミライに夢と希望をつくる 取組方針1	①こどもが多様な 生き方・暮らし 方を選択できる	(1) こどもがミライを生き抜く力と自己肯定感を高めている	地域資源を生かした「遊び・学び・体験」の機会の充実			
			自ら考え判断する力を育む教育の推進			
			多様な学びに対応した最適な教育環境づくり			
		(2) 人生100年時代に誰もが学び合いを通じていきいきと暮らしている	大人の学び・活躍を支援する機会の充実			
			「クルマのまち」の更なる魅力の向上			
			まちの歴史・文化・芸術や自然をミライにつなぐ取組の推進			
	②誰もがつながり 合いの中で安心 して暮らすこと ができる	(3) 市民のまちへの愛着・誇りが育まれている	身近な地域の魅力を知り、生かす機会の充実			
			テーマやターゲットに応じた戦略的な情報の発信			
結婚・出産・子育て支援の充実						
(1) まち全体がこどもの成長を支えている		保育ニーズへの対応と良好な幼児教育・保育環境づくり				
		配慮が必要なこどもへの支援				
		(2) 誰もが地域・多世代でともにつながり合い、自分らしく暮らしている	地域活動の持続可能性の向上			
多様でゆるやかな「つながり合い」創出の促進						
ともにミライにつながるまちをつくる 取組方針2	③産業中枢都市と して深化し続け る		(1) 新たな産業が創出されている	ミライを支える産業の創出と育成		
		積極的な起業創業の支援				
		産業用地の創出				
		(2) 市内事業者が社会の変化に適応している	市内事業者の持続可能性の向上に関する取組の支援			
			(3) 誰もが希望する働き方を実現している	多様な人材の活躍と柔軟な働き方を実現する人材戦略への支援		
				④将来を展望した 都市環境の形成 を進める	(1) 次代につなぐ快適な都市環境の実現に取り組んでいる	都市部の利便性の高い暮らし環境の充実
	山村部の持続可能な暮らしの仕組みづくり					
	社会環境の変化に適応する暮らし機能の最適化					
	多様な人をひきつける中心市街地の魅力の向上					
	(2) 安全に暮らせる災害に強いまちの実現に取り組んでいる	都市間・拠点間連携を支える交通ネットワークの強化				
		地域力発揮による防災力の強化				
		防災・減災を支える基盤づくり				
		暮らしを守る自然環境の適正な保全				
	⑤脱炭素社会の実 現に挑戦する	(1) CO ₂ 排出削減目標を達成している	脱炭素に向けた市民の行動の促進			
			脱炭素に向けた事業者の取組の促進			
			脱炭素を先導する公共の取組の推進			
(2) 新たなエネルギーや技術の利活用に取り組んでいる		水素社会の実現に向けた取組の推進				
		公民連携による先進技術の開発・活用の促進				

※施策は策定時点のものであり、進捗や社会情勢等を踏まえて毎年見直しを図ります